

令和元年6月21日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02437

研究課題名(和文)南宋文学における故郷・田園に関する研究 陸游・楊万里・劉克莊の詩を中心に

研究課題名(英文) A Study on the Subject of Hometown in the Literature of the Southern Song :
Focusing on Lu You, Yang Wanli and Liu Kezhuang

研究代表者

浅見 洋二 (Asami, Yoji)

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：70184158

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、南宋期の文学に表現された故郷・田園および郷村社会のあり方について、陸游・楊万里・劉克莊の詩を中心に考察を加え、文学史のみならず近世地域社会史および近世思想史の視点をも交えて多面的に解明することを目的として行われた。主として次の四点を解明した。(1)陸游・楊万里・劉克莊の詩に表現された故郷・田園と陶淵明詩のそれとの比較。(2)陸游・楊万里・劉克莊の詩に表現された老人・子供像。(3)陸游・楊万里・劉克莊の詩に表現された郷村社会像。(4)陸游・楊万里・劉克莊の詩に表現された「郷紳」意識。これらの成果については、論文および学会発表の形で公表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

中国文学史上、故郷・田園を主題化した最初期の文人は東晋の陶淵明であるが、以後、六朝・唐・北宋を通じて、実際に故郷の農村に帰り、そこでの田園生活を表現した文人は極めて少ない。本研究に取り上げる南宋の陸游・楊万里・劉克莊は、出仕中も頻りに故郷に帰り、また引退後は晩年を故郷にあって過ごすなど、郷村社会と密接に関わる生涯を送り、そこでの暮らしのありさまを多くの詩にうたった点で注目される。本研究は、彼らの文学作品に表現された故郷・田園イメージを「老人・子供」といった周縁的な存在に着目する形で分析を加えた点、「暮らしの場」としての郷村社会の姿を具体的に明らかにした点で少なからぬ意義を有する。

研究成果の概要(英文)：This research project focuses on how the concepts of home town and rural society are expressed in the literature of the Southern Song, primarily through the works of Lu You, Yang Wanli and Liu Kezhuang.

This study goes beyond the scope of literary history and includes various perspectives, including those of early modern social history and the early modern history of thought. This study can be broadly divided into four different research perspectives. The first is a comparison between the depiction of the "hometown" and the countryside in the poetry of Lu You, Yang Wanli and Liu Kezhuang and similar depictions in the poetry of Tao Yuanming. The second focuses on Lu You, Yang Wanli and Liu Kezhuang depiction of children and the elderly. The third focuses on their depiction of rural society. The fourth perspective is a consideration of their self awareness as "country gentleman". The results of these efforts have been presented at conferences and through published papers.

研究分野：中国文学、唐宋期を中心とする詩と詩学

キーワード：南宋 故郷 田園 陸游 楊万里 劉克莊

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

官僚たる文人が官を辞して故郷へと帰ること、すなわち帰隱は処世上の重要な問題であった。かかる問題に正面から取り組んだ最初期の文人は東晋の陶淵明。官僚 = 文人の故郷への帰還、故郷としての農村・田園、農民としての生活といった主題が、陶淵明によって初めて本格的に文学(詩)のなかに表現された。そのため、中国文学における故郷・田園をめぐる研究は陶淵明研究を軸に行われてきた。陶淵明以後の唐や宋の詩における故郷・田園に関する研究も、基本的にはそれらが「陶淵明的なるもの」をいかに継承したかという視点のもとに行われたと言える。

そうした先行研究の成果には優れたものが多く、本研究にとって重要な基盤となるものであるが、しかし往々にして次のような根本的な問題を見落としているように思われる。すなわち、六朝・唐・宋を通じて、陶淵明のように実際に故郷の農村に長期に涉って身を置き、郷村社会での日常の暮らしを表現した文人は意外にも少ないということ。例えば、唐代にあって杜甫や白居易は他に先駆けて「陶淵明的なるもの」を継承した文人と目されているが、しかし彼らは故郷密着型の生涯を送ったわけではない。宋代になっても北宋の段階では事情は同様であり、主要な文人のなかに故郷密着型の文人はほとんど見られない。

ところが、南宋期になると状況は大きく変わる。陸游・楊万里・范成大・劉克莊などをはじめ、故郷密着型の生涯を送った文人が急増するのである。彼らは出仕中も極めて頻りに故郷に帰り、官界を退いた後は晩年の相当期間を故郷の農民社会のなかで送り、そこで日常生活を数多くの詩にうたった。中国文学史における「陶淵明的なるもの」の継承という点では、彼ら南宋文人こそが最も重要な研究対象として浮上してくる。

彼らは文学史的には陶淵明の継承者と言えるが、社会史的に見るならば後世に出現する新たな士大夫層の先駆という位置づけも可能だろう。南宋の士大夫について、R・ハイムズやP・ボルら米国の宋代史研究者は「地方化 localization」と現象を指摘する。言い換えるならば、地域の郷村社会の成熟とそれに伴う「郷紳」=ローカル・エリート層の成立。明・清時代にもつながってゆくような新しい歴史の胎動と言える。これについては少なからず反論も提出されているが、陸游・楊万里・范成大・劉克莊などの生涯を見るならば、かなり高い妥当性をうかがわせる説であり、本研究にとって参照すべき研究成果の一つである。

官僚 = 文人における故郷・田園を考察するに際して、従来の研究のほとんどは「出仕と隱逸」という問題設定のもとに、士大夫としてコミットする官界と対立・拮抗する空間として故郷・田園を捉えてきた。もちろんこれは重要な視点ではあるが、ややもすると官僚 = 文人が生まれ死んでゆく「暮らしの場」としての郷村社会の姿を見落としてしまう。そうした欠を補い新たな研究領域を拓くためには、上述のような地域社会史的な視点は不可欠である。また、かかる「暮らしの場」を、彼らは士大夫、すなわち地域社会を指導するローカル・エリート(一種の「郷紳」に類する存在)としてどのように捉えていたのか、思想史的な観点からも極めて興味深いものを含んでいる。「郷里空間 (= 郷村社会)」とそこに属する「郷紳」が持つ思想史的な意味については溝口雄三・小島毅らの研究があり、本研究にとっても踏まえるべき重要な成果と言える。

浅見は近年、唐宋を中心とする時代の詩を研究しており、陸游・楊万里・劉克莊についても専論を発表してきた。その過程で、彼らの詩に表現された故郷・田園に関する研究を更に拡充する必要を感じ、本研究を構想するに至った。

2. 研究の目的

本研究は、南宋期の文学に表現された故郷・田園（＝郷村社会）のあり方について、陸游・楊万里・劉克莊の詩を中心に考察を加える。中国文学史上、故郷・田園とそこでの日常生活を主題化し表現した最初期の文人は東晋の陶淵明であるが、以後、六朝・唐・北宋を通じて、実際に故郷の農村に帰り、そこでの田園生活を詩文に表現した文人は意外にも極めて少ない。本研究に取りあげる南宋の三文人は、出仕した後も頻繁に故郷に帰り、また官界引退後は晩年の相当期間を故郷にあって過ごすなど、郷村社会に密着した生涯を送り、そこでの暮らしのありさまを多くの詩にうたった点で注目される。本研究は、彼らの詩に表現された故郷のあり方について、文学史のみならず地域社会史および思想史の視点をも交えて多角的に解明することを目的とする。

本研究が重点を置くのは、南宋を代表する文人陸游・楊万里・劉克莊の詩である（可能ならば附随して范成大も含めたい）。彼らの詩に、故郷・田園（＝郷村社会）がどのように表現されたか、そこは彼らにとってどのような「暮らしの場」であったのか等々について、文学史的視点のみならず、地域社会史的・思想史的な視点を交えながら多角的に考察を試みる。

まず、文学史的視点からは、南宋詩の故郷・田園イメージに「陶淵明的なるもの」がいかに継承されたか、詩の表現を分析・検討することで明らかにする。陸游・楊万里・劉克莊の詩には、直接に陶淵明に言及する言葉が少ないのに加えて、陶淵明が作りあげたテーマ・モチーフが頻出する。それらを詳細に網羅して整理し分析することを研究の基礎作業として行う。

文学史的視点からの研究として、さらに重点を置きたいのは「老人と子供」に着目した故郷・田園イメージに関する研究である。故郷・田園とは、農民たちを除けば、老人と子供によって構成される世界と言える。青年は故郷を去って仕官のため都へと向い、壮年は官界にあって職務のため各地を旅する。故郷の農村にのこされるのは、家を守る女たちのほかには出仕する年齢に達していない子供とすでに出仕を辞めて退いた老人。故郷・田園にとって、老人と子供は不可欠の要素として古くから表現されてきた。例えば西晋・張協「七命」に「玄黠は巷歌し、黄髪は撃壤す」とあって、老人と子供がともに歡び暮らす豊かな村里の情景が描かれるように。陸游・楊万里・劉克莊の詩にも、子供に寄り添い、子供と戯れる年老いた詩人自身の姿をうたった作が多く見られる。老人と子供は、いずれも社会の周縁に押しやられてきた存在である。そうした周縁的な存在がこうして詩のテーマ・モチーフとして前面に迫り出てきたことには、南宋という時代全般に通底する重要な問題が現われていよう。

以上に加えて、本研究では地域社会史のおよび思想史的な視点も交えての研究をめざす。具体的には、農民との交流をうたった詩の分析を通して、彼らが身を置く郷村社会のありかた、彼らの郷村社会との関わり方を宋代史研究の成果を参照しつつ明らかにしようとした。陸游・楊万里・劉克莊の詩を見ると、近隣の農民たちが構成する「社」と呼ばれるコミュニティに、自らも農民の一人として深く関わっていたことがわかる。彼らが出仕の期間中に官僚士大夫として行った各種の言論と、こうした詩にうたわれた農村社会との関わり方は、どのような関係性のもとにあったのか、それは明・清のいわゆる「郷紳」と比較するとき、どの程度まで重なり、あるいは異なるのか、宋および明・清思想史の研究成果も踏まえつつ明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

本研究が重点を置くのは、南宋を代表する文人陸游・楊万里・劉克莊の詩である（可能ならば附随して范成大も含めたい）。彼らの詩に、故郷・田園（＝郷村社会）がどのように表現されたか、そこは彼らにとってどのような「暮らしの場」であったのか等々について、文学史的視

点のみならず、地域社会史的・思想史的な視点を交えながら多角的に考察を試みる。

まず、文学史的視点からは、南宋詩の故郷・田園イメージに「陶淵明的なるもの」がいかに継承されたか、詩の表現を分析・検討することで明らかにする。陸游・楊万里・劉克莊の詩には、直接に陶淵明に言及する言葉が少ないのに加えて、陶淵明が作りあげたテーマ・モチーフが頻出する。それらを詳細に網羅して整理し分析することを研究の基礎作業として行う。

文学史的視点からの研究として、さらに重点を置きたいのは「老人と子供」に着目した故郷・田園イメージに関する研究である。故郷・田園とは、農民たちを除けば、老人と子供によって構成される世界と言える。青年は故郷を去って仕官のため都へと向い、壮年は官界にあつて職務のため各地を旅する。故郷の農村にのこされるのは、家を守る女たちのほかには出仕する年齢に達していない子供とすでに出仕を辞めて退いた老人。故郷・田園にとって、老人と子供は不可欠の要素として古くから表現されてきた。例えば西晋・張協「七命」に「玄皤は巷歌し、黄髪は撃壤す」とあつて、老人と子供がともに歎び暮らす豊かな村里の情景が描かれるように。陸游・楊万里・劉克莊の詩にも、子供に寄り添い、子供と戯れる年老いた詩人自身の姿をうたった作が多く見られる。老人と子供は、いずれも社会の周縁に押しやられてきた存在である。そうした周縁的な存在がこうして詩のテーマ・モチーフとして前面に迫り出てきたことには、南宋という時代全般に通底する重要な問題が現われている。

以上に加えて、本研究では地域社会史のおよび思想史的な視点も交えての研究をめざす。具体的には、農民との交流をうたった詩の分析を通して、彼らが身を置く郷村社会のありかた、彼らの郷村社会との関わり方を宋代史研究の成果を参照しつつ明らかにする。陸游・楊万里・劉克莊の詩を見ると、近隣の農民たちが構成する「社」と呼ばれるコミュニティーに、自らも農民の一人として深く関わっていたことがわかる。彼らが出仕の期間中に官僚士大夫として行った各種の言論と、こうした詩にうたわれた農村社会との関わり方は、どのような関係性のもとにあったのか、それは明・清のいわゆる「郷紳」と比較するとき、どの程度まで重なり、あるいは異なるのか、宋および明・清思想史の研究成果も踏まえつつ明らかにする。

具体的には、次の四項からなる研究を行う。

- (1)陸游・楊万里・劉克莊の詩に表現された故郷・田園と陶淵明詩のそれとの比較。
- (2)陸游・楊万里・劉克莊の詩に表現された老人・子供に関する研究。
- (3)陸游・楊万里・劉克莊の詩に表現された郷村社会のあり方に関する研究。
- (4)陸游・楊万里・劉克莊の詩に表現された「郷紳」意識に関する研究。

それぞれについて、各項相互の関連に意を払いつつ調査・分析を加えてゆく。特に(3)(4)については、詩のみならず各種の文章をも調査の対象とし、故郷で作られた詩と出仕中に作られた文との差異に意を払う。

4. 研究成果

本研究は、南宋期の文学に表現された故郷・田園および郷村社会のあり方について、陸游・楊万里・劉克莊の詩を中心に考察し、その文学史のおよび地域社会史的・思想史的特質を明らかにするものであり、主に次の四項目からなる研究を行う。すなわち(1)陸游・楊万里・劉克莊の詩に表現された故郷・田園と陶淵明詩のそれとの比較。(2)陸游・楊万里・劉克莊の詩に表現された老人・子供に関する研究。(3)陸游・楊万里・劉克莊の詩に表現された郷村社会のあり方に関する研究。(4)陸游・楊万里・劉克莊の詩に表現された「郷紳」意識に関する研究。以下、年度別に研究成果の概要を記す。

2015年度

本年度は、全体の基礎となる研究、上記四項のうち(1)(2)に重点を置いて研究を進め、合わせていくつかの萌芽的な課題にも着手した。まずは最も基礎的な作業として、陸游・楊万里・劉克莊の詩に表現された故郷・田園イメージに関連する表現について、陶淵明のそれと関連づける形で分類・整理した。また、老人・子供イメージに関する表現についても同様の作業を行った。

これらの成果については、論文「楊万里と『詩債』」として公刊したほか、2015年8月29日、西安にて開催された和漢比較文学学会における講演「日本漢詩史における『唐』と『宋』」、および9月17日、上海復旦大学における講演「中国詩における子供と幼年期 陶淵明から陸游・楊万里へ」等の形で口頭発表を行った。

2016年度

本年度は、上記(1)～(4)のうち、特に(3)(4)に関する研究に重点を置いて研究を行った。また、前年度は陸游・楊万里の文集を調査対象としていたが、それを劉克莊にも拡大して行った。

本年度の研究において特筆すべきは、大阪大学国際共同研究促進プログラムにより、7月～8月、復旦大学・侯体健副教授、および華中師範大学・林岩副教授を招いて行った共同研究「宋代の社会転換と文学 地域社会・科举制度からのアプローチ」との連動を図った点にある。これによって、宋代社会の歴史的な転換過程のなかに位置づける形で本研究を進めることができた。

2017年度

本年度は、上記(1)～(4)のうち、特に(3)(4)に関する研究に重点を置いて研究を行った。その成果の一部は、論文「蘇軾及楊万里詩中山水の擬人化」として発表したほか、8月廈門大学にて開催された宋代文学関連の学会において口頭発表した。

本年度の研究において特筆すべきは、大阪大学国際共同研究促進プログラムにより、7月～8月、上海財経大学・李貴教授、および常熟理工学院・曹逸梅講師を招いて行った共同研究「宋詩の受容・解釈に関する研究」との連動を図った点にある。これによって、宋詩の受容・解釈の歴史のなかに位置づける形で本研究を進めることができた。

2018年度

本年度は(1)～(4)に関する前年度までの研究成果を踏まえつつ、北宋を視野に入れた研究を行った。特に蘇軾・黄庭堅との比較を踏まえつつ、陸游・楊万里の詩の読解を進めた。

以上の研究成果については、日本および中国の宋代文学関係の学会にて発表したほか、その内容の一部を学術誌に発表した。これらに加えて、陸游の詩の訳注作業を進めた。近年中に書物(『新釈漢文大系・詩人編』、明治書院)として公刊の予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 4 件)

1 浅見洋二, 文本と秘密—再論言論統制下の文学文本—, 『宋代文学評論』第3輯, 浙江大学出版社, 2018年6月, p.243-p.267, 査読有

2 浅見洋二, 蘇軾と楊万里詩中の山水的擬人化, 『風行水上自成文: 楊万里与南宋文化及紀年楊万里誕辰 890 周年国際学術研討会論文集』, 江西人民出版社, 2017年11月, p.233-p.247, 査読有

3 浅見洋二, 楊万里と「詩債」, 『日本宋代文学学会報』第1集, 2015年5月, p.94-p.115, 査読有

〔学会発表〕(計 11 件)

1 浅見洋二, 文本的「公」と「私」—蘇軾文集の編纂と尺牘—, 2018 国際中青年学者宋代文学

研討会，蘇州大学，蘇州，2018年8月17日，招待講演，国際学会

2 浅見洋二，蘇軾文集の編纂与尺牘，「文本世界的内与外—多重視域下的中国古典文学研究」国際學術研討会，華中師範大学，武漢，2018年7月1日，招待講演，国際学会

3 浅見洋二，蘇軾及楊万里詩中山水の擬人化，「人文山水」跨領域対談學術研習營，東海大学，台中，2015年12月5日，招待講演，国際学会

〔図書〕(計 1 件)

1 浅見洋二，文本の密碼 社会語境中的宋代文学，復旦大学出版社，2018年8月，pp.311

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号(8桁)：

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。